

社会科学習指導案

指導者 牟田 小百合

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)
- 2 学 年 第 4 学年 2 組 26 名 [4 年 2 組教室]
- 3 単 元 名 住みよいくらしをつくる ～ごみから探るわたしたちできること～
- 4 単元設定の理由

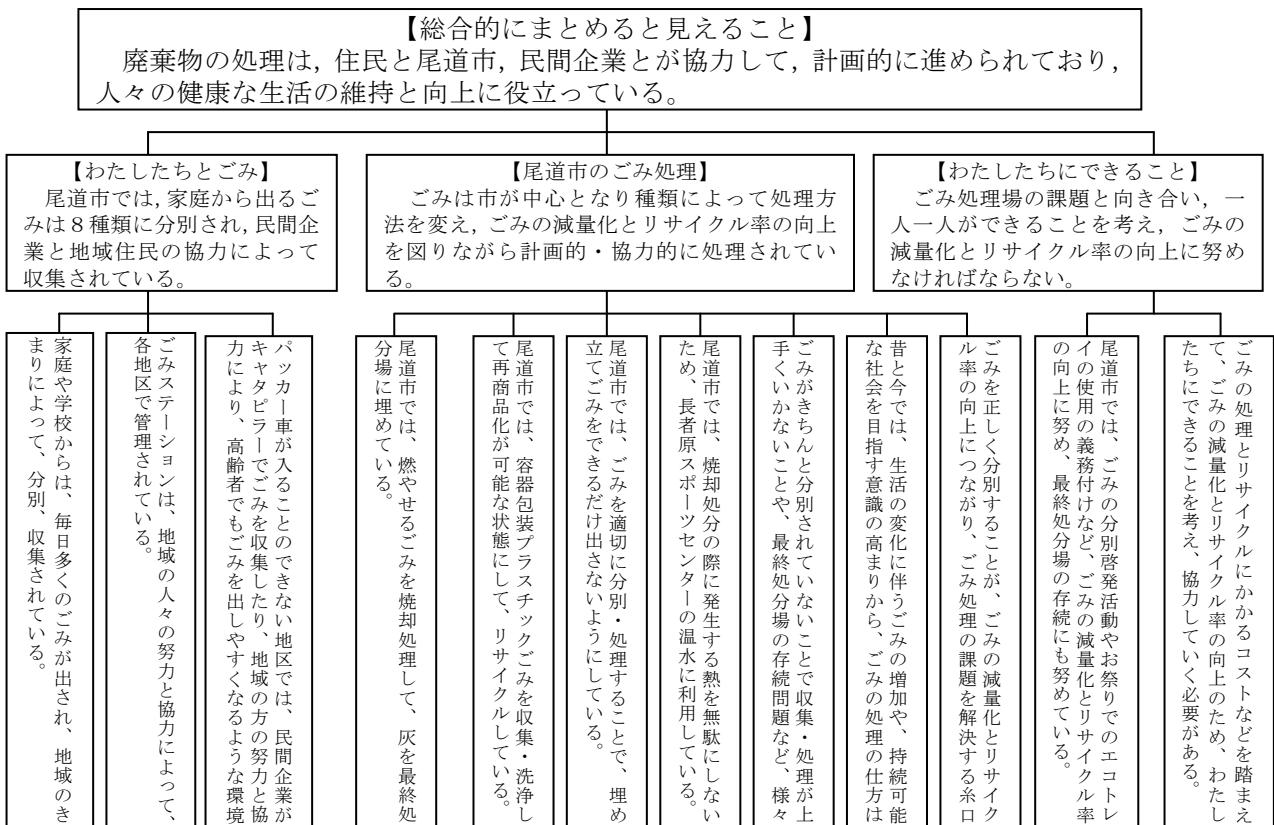
- 本単元は、小学校学習指導要領第 3 学年及び第 4 学年の目標と内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり。

イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること

内容構造図



本単元は、家庭や学校で出るごみがどのように分別、収集され、市ではどのようにごみが処理されているのかを調べることを通して、これらの対策や事業が協力的・計画的に進められ、自分たちの健康な生活と良好な生活環境の維持・向上に役立っている事を考えることをねらいとしている。

尾道市では現在、8種類の分別回収が行われている。燃やせるごみは、尾道市クリーンセンターで焼却処分されて灰になった後、因島大浜最終処分場に埋められている。容器包装プラスチックごみは、クリーンセンターで分別・洗浄をし直された後、「容器包装リサイクル法」に基づきプラスチック原料に再商品化され、プランターとして生まれ変わっている。また、燃やせないごみや粗大ごみは、人の手で再度分別し直され、とリサイクルできるものが分けられて処理されている。一方、埋め立てゴミは、ほとんどがそのまま原田の最終処分場に埋められているが、その他のごみの適切な分別により減量につながっている。その他、市では、ごみの分別啓発活動やお祭りでのエコトレイの使用の義務付け、放置自転車の回収リサイクルなども行っている。また、民間企業への委託によるキャタピラーでのごみ収集や、各地区の環境指導員によるごみステーションの管理など、民間企業と地域住民の協力も欠くことができないものとなっている。しかし、最終処分場が半分以上埋まっているという現状や処理とリサイクルにかかる費用の問題、住民の分別が不十分であることなどの課題もある。

このような尾道市のごみの処理と有効利用について調べることにより、廃棄物の処理は尾道市と民間企業、住民の協力によって計画的に行われていることや、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えることができる。また、現在の尾道市のごみの減量化とリサイクル率の向上に向けた取組みを学ぶことを通して、ごみの処理にかかわる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るために欠かせないものであることに気付くことができると考え、本単元を設定した。

- 本学級の児童は、好奇心旺盛で身の回りの出来事に興味をもち、社会科の学習に意欲的に取り組んでいる。アンケートの結果でも、24人/26人の児童が、社会科の学習が好きであると答えており、その理由としては、「予想することが楽しいから」や「調べたり見学したりするのが楽しいから」といったものがほとんどであった。一学期に学習した「火事からくらしをまもる」では、防災センター見学で意欲的に質問し、見たことや考えたことを見学のしおりにたくさんメモしていた。また、自分の住んでいる地域の様子や生活からもっている知識から、防災に向けた地域の取り組みについて話し合うことができた。しかし、消防署の出動経路や通信指令室の仕組み、消防自動車の特徴などから、それらすべてが災害時に一刻も早く出動できるようにするための取り組みであることに気付き発言できた児童は、6人/26人ほどであった。また、課題に対して自分なりの予想することには意欲的であるが、話し合いでの友達の発言や学習で知ったことを踏まえて、まとめたり新たな自分の考えをもったりすることもできにくい。

このような様子から、本学級の児童は見学や調査活動などに意欲的であり、楽しんで社会科の学習に取り組めるものの、自分と友達との考えや学習で得た複数の知識をつなげて、学習したことの社会的な意味や、身の回りの出来事の相互の関連性について考えることについては課題があると考えられる。

- 指導に当たっては、次の手立てを行いながら単元を構成する。

① 身近なごみの調査活動によって学習への意欲を高める。

家や学校から出るごみのごみステーションで集められ、パッカー車に運ばれることは、児童も生活経験から知っている。しかし、その後のゆくえについては不明な点が多いと考えられる。そこで、普段自分たちが出しているごみのゆくえを予想させて、実際に処理の過程を調査する活動を行うことで、自分たちの生活とのかかわりの中で課題を捉え、ごみの処理についての関心を高める。

② 見学や調査活動の視点を明確にもたせる。

自分が立てた予想を検証したり、分からないことを解決したりするために、何を見聞きし調べるのかを個人で考え、明記させることで、一人一人が見学や調査活動の目的を意識して学習をすすめていけるようにする。

③ 自分の考えと友達の意見を図式化し、結びつけて考えさせる。

自分の考えと友達の考えをそれぞれの四角の中に分けて書き、それら2つの四角を結んだ四角の中に、自分の考えと友達の考えを結びつけて考えられることを書かせる。そうすることで、自分だけの考えに終始せず、自分の考えにはなかった視点や考え方を踏まえて、自分の考えを深めていけるようにする。

④ 本時の学びをキーワードでまとめさせる。

毎時間、疑問形のめあてを設定し、児童が本時の学びの視点を明確にもてるようにする。めあてに対する自分の考えを短い言葉でまとめさせることで、調べてきたことをもとに事実を関係づけて、その社会的な意味を考えられるようにする。

⑤ ごみの処理についてできることは何かを話し合い、協力しようとする態度を育てる。

単元のまとめでは、ごみの減量化に向けて自分にできることは何かを話し合わせる。その際、身近な尾道市の取り組みやごみ処理の現状と課題をもとに考え交流することで、自分たちが協力できることについての意識を高めたい。

5 研究主題との関わり

- (1) 本学級では、個人思考する場面や書く活動を設定することで、児童一人一人が考えをもたせるようにしている。まずは一人で、次に二人でと段階をおって考えていくことで、考えをもちにくい児童にも、何らかの考えをもつことができるようになった。しかし、自分の意見を発表することだけに意欲的になってしまい、聞くことには課題が見られる。そのため、話し合いを通して、自分の考えを深めていくことができにくい。
- (2) 本単元では、話し合いによって自分の考えを深められるよう、自分の考えと友達の考えを図式化して書かせ、それらをつなげて分かることをキーワードでまとめる活動を仕組む。そうすることで、当初の自分の考えと、学習のあとの自分の考えとの変化を捉えられるようにし、自分と友達の考えを比べ、交流し深めていくことのよさを感じられるようにしたい。

6 単元の目標

- ごみの処理にかかわる対策や事業に関心を持ち、ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業とのかかわり、これらにかかわる対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを考え、進んで取り組もうとする。
- ごみの処理や有効利用の諸問題から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり資料を活用したりして調べたことを白地図や作品にまとめるとともに、これらの対策や事業が地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考え適切に表現する。

7 単元の評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象に ついての知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	○尾道市のごみの処理や有効利用にかかわる対策や事業に関心を持ち意欲的に調べるとともに、学習してきたことをごみの減量やリサイクルなど、生活での取り組みに生かそうとしている。	○尾道市のごみの処理や有効利用にかかわる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考えたり、判断したりして、それらを適切に表現している。	○尾道市のごみの処理や有効利用にかかわる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集め、ごみの処理や有効利用の様子やそれらが計画的・協力的に進められていることを読み取って、白地図や作品にまとめている。	○尾道市のごみの処理や有効利用は自分たちの生活や産業を支える大切な取り組みであり、これらの対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

学習活動における具体の評価規準	○ごみの処理や有効利用にかかわる対策や事業について疑問に思ったことを調べたり、関心をもったことや気づきなどを、ノートに書いたり発表したりしている。	○尾道市のごみの処理や有効利用について調べたことや、現在の課題から、ごみの分別の意義について考え、自分たちにできることは何かを考えている。	○ごみステーションやクリーンセンター見学を通して、尾道市のごみの処理と有効利用についてノートに書いたり発言したりしている。 ○資料から、尾道市のごみの処理と有効利用の現状と課題を読み取り、考えの根拠としている。	○ごみの減量化とリサイクル率の向上に向けて、ごみの処理に携わる人々は工夫や苦勞をしていることや、尾道市でも様々な取組をしていることが分かる。 ○ごみの減量化とリサイクル率の向上を図ったごみの処理が、尾道市・住民・民間企業の協力のもと、計画的に行われていることが分かる。
-----------------	---	---	--	---

8 指導計画（全 15 時間）

次	学 習 活 動	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
一	家や学校から出たごみのゆくえを探ってみよう。						
	学校や家でのごみの出し方を調べて交流する。(1)	○				○ 家庭や学校でのごみの出し方を意欲的に調べ、分別方法についてノートにまとめ、交流している。	ノート 行動観察
	地域のゴミステーションを見学し、ごみを出すときのルールやきまり、課題などを調べ、話し合う。(2)	○		○		○ ゴミステーションを見学し、ごみ収集に関する工夫をについて調べている。 ○ ゴミステーションの様子から、地域の人々の協力と努力があつて、ゴミステーションが管理され、適切に収集されていることを考えている。	ノート 行動観察

	パッカー車が通ることのできない山手地区のごみ収集の方法や、収集をよりよくするために住民が協力している事例を知る。(2)				○	○ 山手地区のごみ収集の様子や地域の事例から、尾道市と民間企業、住民の協力によって、ごみが収集されている事を理解している。	ノート 行動観察	
	分別して出されたごみは、どのように処理されるのだろう。							
	ごみの処理についての学習課題をつくる。(1)	○				○ ごみの処理方法やや処理に携わる人の工夫や苦労について調べることに興味をもっている。	ノート 行動観察	
	尾道市のごみ処理の方法を予想し、クリーンセンター見学の計画を立てる。(1)	○			○	○ 自分たちの出したごみがどのように処理されているのかについて予想し、見学で知りたいことを明確にしている。 ○ 学習課題に対する自分の予想を検証するために、見学で見ることや聞くことを考えている。	ノート 行動観察	
二	クリーンセンターに行き、尾道市のごみ処理の方法や、処理に携わる人の工夫や苦労を調べる。(2)	○				○ クリーンセンターに行き、見学したり質問したりして、ごみ処理の方法や処理に携わる人々の工夫や苦労を調べている。 ○ 尾道市のごみ処理の方法や、クリーンセンターで働く人々の苦労や工夫が分かる。	見学メモ 行動観察	
	もやせるごみの処理方法をまとめる。(1)				○	○ 見学したことをもとに、燃やせるごみの処理方法とゆくえについてまとめている。 ○ ごみの処理に携わる人々の工夫や苦労を理解している。	ノート 行動観察	
	容器包装プラスチック、ペットボトル、資源物の処理方法をまとめる。(1)				○	○ 見学したことをもとに、容器包装プラスチック、ペットボトル、資源物の処理方法とゆくえについてまとめている。 ○ リサイクルや資源化により、ご	ノート 行動観察	

					みが再商品化されて生まれ変わっている事を理解している。	
	もやせないごみ, 埋め立てごみ, 粗大ごみの処理方法をまとめる。(1)			○	○ 見学したことをもとに, もやせないごみ, 埋め立てごみ, 粗大ごみの処理方法とゆくえについてまとめている。 ○ そのまま処理するのではなく分別をし直すことで, ごみの減量化とリサイクル率の向上に努めていることを理解している。	ノート 行動観察
	尾道市のリサイクルへの取り組みや, 自分たちの身の回りにあるリサイクル製品を持ち寄って交流する。(1)			○	○ 自分たちの身の回りにはリサイクル製品がたくさんあることや, 尾道市を始め社会全体がリサイクル率の向上に向けて, 様々な取り組みをしている事を理解している。	ノート 行動観察
	すべて燃やして処理できるのに, なぜごみを分けて処理するのだろう。					ノート 行動観察
	なぜごみを分けて処理するのかについて話し合い, 分別してごみを出すことの意義を理解する。(1, 本時)			○	○ 資料から, 現在のごみの処理の過程や再利用が可能なごみの割合を結びつけ, 分別処理をすることで再利用できるごみを増やすことにつながることを読み取っている。	
三	ごみの減量化とリサイクル率の向上に向けて, 自分たちが協力できることを話し合う。(1)			○	○ 尾道市の取り組みや, 各家庭での取り組みを参考にして, 自分たちにできることは何かを考えている。	ノート 行動観察

9 本時の展開

(1) 本時の目標

ごみを分別処理することで, ごみの再利用とリサイクル率の向上につながっていることに気づき, ゴミの減量につながっていることを考えている。 【社会的な思考・判断・表現】

(2) 観点別評価規準

○ 分別処理することで, 再利用できるごみの割合が増えることに気づき, ゴミの減量につな

っていることを考えている。

【社会的な思考・判断・表現】

(3) 本時のポイント

ごみの分別処理には多くの労力や費用などがかかるのに、なぜ分別して処理するのかを考えさせることで、分別処理の必要性と意義に迫れるようにする。また、自分と友達の見解を図式化して書き、なぜ分別して処理するのかを短い言葉で考えをまとめさせることで、自分と友達の見解の共通点や相違点を踏まえて再思考し、自分の考えを深めていけるようにする。

(4) 準備物

資料 写真

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 ごみの種類ごとの処理の過程をふり返る。</p> <p>2 分別処理の現状やごみ処理に携わる人々の苦勞をふり返り、学習課題をつくる。</p>	<p>○ ごみの種類ごとに処理の方法とゆくえが違っていたことを想起させる。</p> <p>○ 「燃やしてはいけないものがある」などの適正処理の視点から、正しく分別する必要があることを押さえておく。</p> <p>○ 分別処理やリサイクルにかかる費用とその流れ、クリーンセンターの方の苦勞をふり返らせることで、すべて燃やして処理すればよいのではないかという視点を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理に年間約15億かかる。 ・リサイクルセンターの人は、たった7人で分別のし直しをしている。 ・容器包装プラスチックは福山市や奈良県を旅して、プランターに生まれ変わる。 	
<p>大変なのに、なぜごみを分別して処理するのだろう。</p>		
<p>3 分別処理をする理由を予想して書く。</p> <p>4 資料を読み取り考える。</p>	<p>○ 根拠をもって考えさせるために、これまで学習してきたことを踏まえて予想させる。</p> <p>○ ごみの種類ごとの処理の過程と、ごみの種類ごとの分布図を示し、分別して処理することで最終処分場に埋められるごみの量が減ることに気付かせていく。</p> <p>○ 気付きにくい場合には、ごみの種類別の分布</p>	

	<p>図に色を塗らせて、最終処分場に埋められるものと、再利用されるものの量を比較できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最終処分場の建設に必要な費用や、3/5は埋まっているという現状を提示することで、最終処分場に埋められるごみを減らすことの必要性に気付かせる。 ○ 自分の考えとその理由を書かせることで、根拠にした資料そこから考えたことを明確にさせる。 	
5 考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流で児童が考えを深められるよう、考えの根拠とした資料とそこから考えたことを発言させる。 ・ダイオキシン問題が出てから、燃やして処理するごみの量が減っているから、環境を守るためではないか。 ・ごみのゆくえの図から、すべて燃やして処理すると、すべてのごみが最終処分場に埋められることになる。 ・ごみの種類ごとの分布を見ると、最終処分場にいくごみは全体の15%で済んでいて、17%は再利用されている。 ○ 自分たちが分別したごみの中に、再利用できるものがどれだけあるかを確認させることで、正しく分別することが、ごみの減量化に不可欠であることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分別処理することで、再利用できるごみの割合が増えることに気づき、分別処理の意義について考えている。 (ノート・行動観察)
6 ごみの分別処理や、再商品化に努める人々の言葉を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ○ リサイクルセンターの人や、容器包装プラスチックの再商品化に携わる人の、リサイクル率の向上に向けた思いに触れさせる。 ・リサイクルセンターの人は、捨てられたごみを分別し直すことで、少しでも再利用できる部分を増やし、ゴミを減らしたいと思っている。 	
7 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えにはなかった視点や考え方を踏まえて、自分の考えを深められるようにするために、「他者視点」「自己モニター」を意識してまとめさせる。 	

